

虐待防止 子どもの声かす

1000人アンケート シンポで報告へ

江戸川区で今年1月、小学1年の岡本海渡君(当時7歳)が両親の暴行で死亡した事件を受け、同区の市民団体「江戸川子どもおんぶず」が3日、中央区の築地本願寺で、児童虐待防止のシンポジウムを開く。虐待について、1000人以上の子どもたちにアンケートした結果が報告される予定で、同団体では「行政には、子どもの声を取り入れた対策を立ててほしい」と呼びかけるつもりだ。
(甲斐史子)



大河内さん(左から2番目)と一緒に、シンポジウムの準備をする若者たち(9月29日)

江戸川の市民団体 中央区であく開催

海渡君の事件では、暴行を受けた事実を海渡君が歯科医に打ち明け、児童相談所や学校などが対応していたにもかかわらず、命を救えなかった。主任児童委員として、江戸川区で児童虐待防止などに取り組む同団体代表の大河内秀人さん(52)は、事件の対応について「親と行政の大人同士の問題になっていて、被害者の子どもの声が十分に聞き取れていなかった」と感じたといい。

事件後、区が公表した再発防止策も同様で、大河内

さんは「虐待防止を本気で考えるなら、被害者となりうる子どもの声を反映させるべきだ」と、子どもを対象としたアンケート調査を行うことにした。

調査に若者も加わるよう呼びかけたところ、区内を中心に17524歳の大学生や高校生ら15人が集まった。アンケートでは①困った時の相談相手②虐待を受けている可能性がある友人がいる時、何ができるか――などを質問。公園で一緒に遊んで仲良くなった後に尋ねるなど、率直な意見を聞き出すための工夫も凝らした。

同団体と交流がある子ども支援グループなども通じて寄せられた回答は1023件に上り、①の質問の回答は、友人、家族、「なし」の順で続き、学校や児童相談所を挙げた子どもは、ほとんどいなかったという。

高校生らは、区子ども家庭支援センターや児童相談

所なども訪れ、児童虐待への対応についてインタビューもしており、これらの体験も発表する。

調査に参加した千葉県市川市の高校3年生真坂健太郎さん(17)は「世代的に近い僕たちだからできることがある。ぜひ活動を知ってほしい」と来場を呼びかけている。

シンポジウムは午後1時半から、専門家によるパネル討論会もある。参加費は18歳以下無料、19歳25歳500円、26歳以上1000円。問い合わせや申し込みは、大河内さん090・6709・3712へ。